

高齢者の安全対策委員会の取り組み見直しについて

1. 令和 5 年認証時及び JISC ヒア時の主な意見

(1) 溺死溺水

- ・アルコールなどとの関連性も検討しては
- ・他市では注意事項を書いたタオルの配布、製薬会社とともに服薬の意識づけ、長湯にならないためのタイマー配布を実施

(2) 転倒予防

- ・介護予防の活動に参加されている方の基礎疾患や既往症などのデータを組み合わせることで、見えてくるものがあるのではないか
- ・本人に体力が落ちていることを認識してもらい支援を受ける気持ちになる仕組みづくりが必要ではないか
- ・行政がする行事はなかなか参加してもらえないので高齢者の日常の中で呼びかけることが必要。近所の通いやすいところに行けると良い。口コミの力を利用することも大切
- ・健康アプリなどを利用することで一人でも健康づくりに取り組めると感じるのでは

(3) 虐待防止

- ・海外は比較的通報がしやすいが、日本では家族を悪者にしてしまうということで控えるケースが多い。また虐待にあっていないことに気がついていないケースもあるのでは。

2. 見直しを行うポイント

	これまで	今回
取り組み項目	・転倒予防 ・高齢者虐待防止	・転倒・溺死溺水の予防 ・高齢者虐待防止
個票の集約	・転倒予防 (2 項目) ・高齢者虐待防止 (3 項目)	・転倒・溺死溺水の予防 (2 項目) ・高齢者虐待防止 (1 項目)
指標の変更	・溺死溺水に取り組む人の指標が置かれていなかった ・虐待については、地域や事業者からの相談や通報件数の割合を中期指標としていた	・溺死溺水に取り組む人の指標を追加 ・虐待については、地域や事業者からの相談や通報件数の件数を中期指標に変更

3. 転倒予防パンフレットの見直しについて

これまで、周知啓発に活用してきた転倒予防パンフレットについて、作成後数年が経過し、用いている指標等が古くなっているため、今回、委員会に諮りご意見を頂いたうえで、年度内に見直し、関係機関等に配布を行いたい。

※外傷等動向委員会においては、医療機関等への配布、高齢者向けの大判のポスター作成なども提案されている。

【高齢者の安全対策】 4－①【転倒・溺死溺水の予防】								
転倒予防・溺死溺水に関する普及・啓発								
課題	客観的課題	・ 高齢者が、けがを負う原因の半数以上は「転倒」であり、その半数は自宅で発生 ・ 骨折は、介護・介助が必要となった原因の上位 ・ 転倒を契機に活動量は減少し、虚弱を加速させる ・ 溺死溺水は、高齢者の死亡原因の上位						
	主観的課題	・ 転倒予防・溺死溺水対策の普及啓発については、さらなる推進が必要						
目標		転倒予防・溺死溺水対策の周知をさらに促進し、対策を行う高齢者を増やす						
実施者・協働者		NPO 法人、介護サービス提供事業者、久留米市社会福祉協議会、市など						
対象者		高齢者、市民						
実施内容		・ 転倒予防、溺死溺水対策の周知・啓発						
対策委員会の関わり		・ 啓発物の検討・企画・見直し ・ 転倒予防、溺死溺水対策の周知・啓発						
2023 年度の実績 (活動実績)		・ 保健所や民生委員・児童委員、介護サービス提供事業所、地域包括支援センターなど高齢者と接する機会が多い関係機関を通じて、『転倒予防の啓発パンフレット』の配付を行った。(380 部を配布) ・ 介護予防教室や地域包括支援センターや関係課が主催するイベント時に『コロナ禍におけるフレイル予防のリーフレット』の活用を依頼して、465 部のリーフレット提供を行った。 ・ 介護保険住宅改修要支援、要介護認定の方への保険給付事業として、住宅の手すりや段差解消などの改修などに給付を行った 件数：1,072 件 金額：約 9,659 万円  【高齢者の転倒予防パンフレット】【フレイル予防リーフレット】						
(過去 1 年間の改善点)		高齢者等が日常生活で立ち寄る商業施設でイベントを実施し、イベント時での周知啓発を実施した。 						
(JISC ヒアリング内容について協議・反映した点)		高齢者等が日常生活で立ち寄る商業施設でイベントを実施し、イベント時での周知啓発を実施した。 【商業施設でのイベント】						
定量的評価		内容	単位	2019	2020	2021	2022	2023
活動指標	介護保険住宅改修実施件数	件	1,022	982	1,048	1,095	1,072	
	転倒予防溺死溺水パンフレットの配付数	枚	4,144	1,705	1,140	1,460	380	
短期評価 (意識・知識など)	転倒予防対策の必要性を認識した人の割合[参加者アンケート調査]	%	(※)	89.5	89.6	90.2	集計中	
中期評価 (態度・行動など)	転倒予防対策を行う人の割合（無回答除く）[高齢者実態調査(3 年毎)]	%	64.7	-	-	64.5	-	
	溺死溺水予防対策を行う人の割合（無回答除く）[高齢者実態調査(3 年毎)]	%	-	-	-	81.5	-	
長期評価 (外傷発生数など)	「転倒・骨折」によって、介護・介助が必要になった高齢者の割合[高齢者実態調査(3 年毎)]	%	23.0	-	-	23.8	-	
定性的評価		転倒予防については、新たに市民の身近な商業施設などでの周知を行い、溺死溺水は市の窓口での電光掲示などを活用し、啓発を効果的に進めることができた。						
評価結果の活用		* アセスメント（外傷等動向調査委員会等による助言や JISC によるヒアリング、定量的・定性的評価などの振り返り）結果をどのように活用するかを記載 溺死溺水対策の啓発を含め、高齢者を取り巻く課題を分析しながらより効果的な対策を検討していく。						



【高齢者の転倒予防パンフレット】【フレイル予防リーフレット】



【商業施設でのイベント】

【高齢者の安全対策】4－②【転倒・溺死溺水の予防】								
転倒予防のための健康づくり、体力維持、介護予防								
課題	客観的課題	・高齢者がけがを負う原因の大半は「転倒」であり、「骨折」につながりやすい ・高齢者の骨折は、介護・介助が必要となった原因の上位である						
	主観的課題	高齢者の多くは「転倒」に不安を感じているが、対策を講じている人は少なく、また継続した取り組みが必要						
目標		地域における転倒予防のための取り組みの活性化						
実施者・協働者		NPO 法人、介護サービス提供事業者、職能団体、地域で健康づくりに取り組む団体、市など						
対象者		・高齢者、市民一般						
実施内容		・年齢と共に低下しがちな体力を維持することを目的に、介護予防プログラムを実践する。 ・地域で行われている様々な健康増進の取り組みに対し、活動助成や周知、広報などを行い、継続的な活動につながるよう支援する。						
対策委員会の関わり		・介護予防プログラムの実践						
2023 年度の実績 (活動実績)		・ にこにこステップ運動教室（講師派遣型）（254 回 2,270 人参加） ・ 認知症予防講座（44 回、137 人参加） ・ お口のための講師派遣（38 回、600 人参加） ・ にこにこステップ運動教室の団体参加者等が、より主体的に住民主体の通いの場の運営を行えるように応援講座を実施し、支援を推進（3 回、80 人参加） ・ リズムで座ってストレッチ教室（24 回、39 人参加） ・ ウォーキング：45 校区でウォーキング大会を実施し、延 7,034 人が参加。 市と包括連携協定を締結しているエフコープ生活協同組合と共催で、健康ウォーキングイベント「くるめ健康のびのびワーク」を11月に開催。市民255名が参加。 ・ ラジオ体操：10 月にラジオ体操講習会及び市民ラジオ体操の集いを開催。 10 月～11 月をラジオ体操推進月間と位置付け、各校区の協力のもと、校区単位でのラジオ体操実施に取り組んだ。（18 校区実施）  【応援講座の様子】						
(過去 1 年間の改善点)		運動に自信のない高齢者が参加しやすいように、椅子に座って行う運動教室を新設し、フレイル境界層の方に対する転倒予防対策につないでいった。						
(JISC ヒアリング内容について協議・反映した点)		SNS を活用した教室等の周知啓発。健康アプリケーションを活用し、本人自身の健康づくりにつながるよう取り組んでいく。						
定量的評価		内容	単位	2019	2020	2021	2022	2023
活動指標	健康ウォーキングの回数、参加者数	回 人	- 5,427	- (※) -	- 2,853	- 6,173	- 7,034	
	「市民ラジオ体操の集い」の回数、参加者数	回 人	2 2,300	- (※) -	- (※) -	1 300	1 300	
	にこにこステップ&スロージョギング教室の回数 延べ参加者数	回 人	794 13,366	176 2,122	207 1,892	144 1,556	112 1,080	
短期評価 (意識・知識など)	70 歳以上で健康づくりのために運動をしている方の割合(1 日 30 分以上、週 2 日以上) [市民意識調査]	%	53.8	- (※)	52.7	49.9	53.9	
中期評価 (態度・行動など)	高齢者のけがの原因のうち「転倒」の割合[SC 実態調査(3 年毎)]	%	—	- (※)	49.5	—	—	
長期評価 (外傷発生数など)	「転倒・骨折」によって、介護・介助が必要になった高齢者の割合 [高齢者実態調査(3 年毎)]	%	23.0	-	-	23.8	—	
定性的評価		住民自身が継続的に取り組めるよう、ひきつづき健康アプリや教室等を実施する。						
評価結果の活用		*アセスメント（外傷等動向調査委員会等による助言や JISC によるヒアリング、定量的・定性的評価などの振り返り）結果をどのように活用するかを記載 健康アプリケーション等を活用し、健康づくり・介護予防の習慣化につながる取組みを推進する。						



【応援講座の様子】

【高齢者虐待防止】虐待や認知症に関する啓発、高齢者の見守り

課題	客観的課題	・被虐待者の約 6 割に認知症の症状があり、虐待事例の多くが同居親族によるものである ・相談・通報の約 6 割が介護事業所等からである一方、近隣住民など身近な人からの通報は少ない					
	主観的課題	虐待や認知症に対する正しい知識・意識を持っていない人もいる					
目標	(1) 虐待や認知症について正しく理解する人、事業所の増加、意識向上 (2) 関係機関等の連携及び地域全体で高齢者を見守り、虐待の未然防止・早期発見・早期対応を行う						
実施者・協働者	(1) 地域の活動団体、キャラバン・メイト、オレンジ協力隊、介護福祉サービス事業者協議会、市 (2) 地域の活動団体、医療機関、介護サービス提供事業所、久留米市社会福祉協議会、地域包括支援センター、市等						
対象者	(1) 市民、介護サービス提供事業所及びその職員 (2) 高齢者						
実施内容	(1) ①虐待に関する認識や認知症に対する理解を深めるための機会の提供(出前講座、講演会)、②在宅介護を行う方向けの支援と介護負担の軽減(家族介護教室の開催)、③認知症の人とその家族を地域で見守り支援する仕組みづくり(認知症サポーター養成)、④③を見える化し、市全体で認知症の方を支える雰囲気づくりを行う新たな仕組みを構築(オレンジ協力隊養成講座)⑤介護サービス提供事業所向けの虐待防止研修の実施 (2) 地域の多様な社会資源を活用した支援体制の構築により、高齢者虐待の早期発見・対応に努める。						
対策委員会の関わり	(1) ①出前講座や講演会などによる啓発、②家族介護教室において、基本的介護技術等の講座を実施、③キャラバン・メイトとして認知症サポーターを養成 ④事業所向け虐待防止研修の実施 (2) 虐待通報や相談への対応、地域ケア会議への出席 など						
2023 年度の実績 (活動実績)	(1) ①市民向け虐待防止啓発(出前講座):47 名参加(3 回)、認知症講演会 :260 名参加 ※1 回開催、 ②家族介護教室 :121 名参加 (8 講座)、③認知症サポーター養成数 :1,744 人(累計 38,823 人) ④オレンジ協力隊登録数:5 団体(オレンジ協力隊養成講座実施:6 団体) ⑤介護サービス提供事業所向け虐待防止研修 :207 事業所(参加者:817 人) ※オンライン・動画配信 (2) ・高齢者が抱える個別課題について、多様な専門職や地域の支援者が多様な視点から検討を行い、課題解決を支援するための地域ケア会議を実施(開催:105 回) ・地域住民や個人宅を訪問する事業者、市などの関係機関が協力して、「くろめ見守りネットワーク」に取り組み、地域全体で見守り活動を行い、日常生活における異変を早期に発見し、支援につなげた						
(過去 1 年間の改善点)	家族介護教室において介護者の意見交換の場やアンケートで在宅介護の苦勞や率直な思いを聞かせていただき、支援が必要と思われる世帯の認知及び支援制度や相談先などの情報提供につながった。						
(JISC ヒアリング内容について協議・反映した点)	出前講座の場を用い、市民の方に高齢者虐待に早期に気づくポイントや発見時の対応方法、相談先などを周知する。						
定量的評価	内容		2019	2020	2021	2022	2023
活動指標	市民や介護事業所向け虐待防止研修の回数、参加者数	回	7	1	1	2	5
		人	280	574	413	371	864
短期評価 (意識・知識など)	虐待を正しく理解する市民の割合 [高齢者実態調査(3 年毎)]	%	身体 73.2% 経済 58.7% 性的 63.8% 介護放棄 65.0% 心理的 64.1%	-	-	身体 72.2% 経済 58.5% 性的 62.8% 介護放棄 63.2% 心理的 64.9 %	-
中期評価 (態度・行動など)	地域や事業者からの相談通報件数・身近な方からの相談通報件数 [長寿支援課統計]	件	地域・事業所 61 件 身近な方 16 件 (全 100 件中)	地域・事業所 42 件 身近な方 41 件 (全 88 件中)	地域・事業所 41 件 身近な方 11 件 (全 60 件中)	地域・事業所 47 件 身近な方 14 件 (全 86 件中)	集計中
長期評価 (外傷発生数など)	虐待発生率 [長寿支援課統計]	%	0.069	0.062	0.046	0.057	集計中
定性的評価	虐待や認知症、介護に関する正しい認識や地域全体での見守りにより、介護者の負担が軽減される。						
評価結果の活用	* アセスメント(外傷等動向調査委員会等による助言や JISC によるヒアリング、定量的・定性的評価などの振り返り)結果をどのように活用するかを記載 市民に対する啓発について、より効果的な方法を検討していく						

【高齢者の安全対策】4-①【転倒予防】転倒予防に関する普及・啓発

課題	客観的課題	・高齢者がけがを負う原因の半数以上は「転倒」であり、骨折につながりやすい ・高齢者の転倒の約半数は、「自宅」で発生している ・骨折は、介護・介助が必要となった原因の上位である						
	主観的課題	高齢者の多くは「転倒」に不安を感じているが、対策を講じている人は少ない						
目標	転倒予防に取り組む人の増加							
内容	自宅内での転倒危険箇所や転倒事例、転倒予防体操の仕方をまとめたパンフレットを配布するほか、様々な機会を捉え注意の喚起と転倒事故に対する対策の必要性を啓発する。							
対象者	高齢者							
実施者	NPO 法人、介護サービス提供事業者、久留米市社会福祉協議会、市など							
対策委員会の関わり	・パンフレットの内容検討・企画・見直し ・パンフレットを使用し周知・啓発							
2022 年度の実績 及び 改善した点等	みんなが実践！ 転倒予防 ※「転倒予防」の重要性 高齢者がけがを負う原因の半数以上は「転倒」であり、骨折につながりやすい。転倒は、高齢者の約半数は「自宅」で発生している。転倒は、介護・介助が必要となった原因の上位である。 転倒予防のポイント ① 転倒しやすい場所を特定し、対策を講じる。 ② 転倒しやすい動作を特定し、対策を講じる。 ③ 転倒しやすい服装を特定し、対策を講じる。 ④ 転倒しやすい状況（状況）を特定し、対策を講じる。 【高齢者の転倒予防パンフレット】 サインに気づいて元気をアップ！ フレイル予防 5つのポイント 毎週10分 毎週1							

（※）「転倒予防対策の必要性を認識した人の割合については、2019は新型コロナウイルスの影響によりアンケート調査実施の前に教室が中止となったため、数値なし。

【高齢者の安全対策】4-②【転倒予防】転倒予防のための健康づくり、体力維持、介護予防								
課題	客観的課題	・高齢者がけがを負う原因の大半は「転倒」であり、「骨折」につながりやすい ・高齢者の骨折は、介護・介助が必要となった原因の上位である						
	主観的課題	高齢者の多くは「転倒」に不安を感じているが、対策を講じている人は少ない						
目標		地域における転倒予防のための取り組みの活性化						
内容		(1) 年齢と共に低下しがちな体力を維持することを目的に、介護予防プログラムを実践する。 (2) 地域で行われている様々な健康増進の取り組みに対し、活動助成や周知、広報などを行い、継続的な活動につながるよう支援する。						
対象者		(1) 高齢者 (2) 市民一般						
実施者		(1) NPO法人、介護サービス提供事業者、職能団体、市など (2) 地域で健康づくりに取り組む団体、市など						
対策委員会の関わり		・介護予防プログラムの実践						
2022 年度の実績 及び 改善した点等		(1) ・にこにこステップ運動教室（講師派遣型）(214回 2167人参加) ・認知症予防講座（11回、142人参加） ・口の元気アップ出張講座（38回、551人参加） ・にこにこステップ運動教室の団体参加者等が、より主体的に住民主体の通いの場の運営を行えるように応援講座を実施し、支援を推進（25回、187人参加） (2) ・ウォーキング：44校区でウォーキング大会を実施し、 6,173人参加。(2校区)新型コロナウイルスの影響等により事業中止または未実施 ・ラジオ体操：3年ぶりにラジオ体操講習会及び市民ラジオ体操の集いを開催した。  【介護予防教室の様子】						
2023 年度の方針 及び 課題等		<u>介護予防事業の実施及び地域住民主体の活動の支援</u> ・介護予防に効果のある「にこにこステップ運動」などの教室は今後も継続的に開催 ・高齢者が早期に自分の筋力や歩行機能の低下に気づけるような仕組みづくりを行う ・住民主体で介護予防活動を継続できるよう、介護予防の自主活動グループづくりや、通いの場の運営を支援する講座を開催 <u>地域で取り組まれる健康づくり活動の支援</u> ・地域で取り組む健康づくり活動としてウォーキングやラジオ体操の実施支援に取り組みながら、継続できるような事業展開を図り、健康づくり活動の実践者の持続的な増加を図る。						
指標		内容	単位	2018	2019	2020	2021	2022
活動指標	① 健康ウォーキングの回数、参加者数	回 人	- 7,432	- 5,427	- (※) - (※)	- 2,853	- 6,173	
	② 「市民ラジオ体操の集い」の回数、参加者数	回 人	2 2,400	2 2,300	- (※) - (※)	- (※) - (※)	1 300	
	② にこにこステップ&スロージョギング教室の回数 延べ参加者数	回 人	721 13,093	794 13,366	176 2,122	207 1,892	144 1,556	
【短期】認識・知識	70歳以上で健康づくりのために運動をしている方の割合 (1日30分以上、週2日以上) [市民意識調査]		%	53.4	53.8	- (※)	52.7	集計中
【中期】態度・行動	高齢者のけがの原因のうち「転倒」の割合 [SC実態調査(3年毎)]		%	-	-	- (※)	49.5	-
【長期】状況	「転倒・骨折」によって、介護・介助が必要になった高齢者の割合 [高齢者実態調査(3年毎)]		%	-	23.0	-	-	23.8

（※）新型コロナウイルスの影響により、実施なし。（SC実態調査はR3に延期）

【高齢者の安全対策】 4ー③【高齢者虐待防止】虐待や認知症に関する講演会・学習会の開催							
課題	客観的課題	・被虐待者の約 60%に認知症の症状がある ・虐待事例の多くが同居親族によるものである ・地域の関係機関からの通報は上がっているが、近隣住民など身近な人からの通報は少ない					
	主観的課題	虐待や認知症に対する正しい知識・認識を持っていない人もいる					
目標		虐待や認知症について正しく理解する人の増加					
内容		（１）虐待に関する認識を高め、認知症に対する理解を深めるための学習機会を提供する。 （２）地域における認知症の人のよき理解者である認知症サポーターを養成し、地域で認知症の人とその家族を見守り、支援を行う。 （３）自宅で高齢者を介護する基本的介護技術を習得し、介護に対する理解を深める。認知症の人を介護している家族に講義と実技指導を行い、家族介護に対する支援を行い、介護負担を軽減する。					
対象者		（１）市民 （２）小学生以上の市民 （３）市民					
実施者		（１）地元関係者、関係団体、市 など （２）キャラバン・メイト、市 など （３）介護福祉サービス事業者協議会、市					
対策委員会の関わり		・キャラバン・メイトとして認知症サポーターを養成 ・家族介護教室において、基本的介護技術等の講座の実施					
2022 年度の実績 及び 改善した点等		（１）・認知症講演会（集合型、派遣型）：7 回、336 名参加 ・市民向け虐待防止啓発講座：開催実績なし（新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため） （２）・認知症サポーター養成数：1,757 人（累計 37,084 人） （３）・認知症の人への声掛け訓練：開催実績なし（新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため） （４）・家族介護教室：108 名参加 ※全 8 講座					
2023 年度の方針 及び 課題等		<u>認知症の理解を深めるための機会の提供</u> ・これまで開催していない団体等に向け、認知症サポーター養成講座の働きかけを実施 ・認知症サポーター養成講座を受講した地域団体や企業等に、ステップアップ講座を受講してもらい、認知症の人とその家族を支援するオレンジ協力隊として市に登録してもらう「チームオレンジ」の仕組みづくり <u>虐待防止の意識醸成に向けた取り組みの実施</u> ・出前講座等の機会を活用し、市民に対し啓発を行う <u>介護者の負担軽減を図るための支援</u> ・介護者の負担軽減のため、家族介護教室の開催や介護用品支給事業などの支援にも継続的に取り組む					
指標	内容	単位	2018	2019	2020	2021	2022
活動指標	虐待防止や認知症に関する講演会・学習会の回数、参加者数	回	8	6	0（※）	1	7
		人	597	333	0（※）	29	336
【短期】認識・知識	虐待を正しく理解する市民の割合 〔高齢者実態調査(3 年毎)〕	%	-	身体 73.2% 経済 58.7% 性的 63.8% 介護放棄 65.0% 心理的 64.1%		-	身体 72.2% 経済 58.5% 性的 62.8% 介護放棄 63.2% 心理的 64.9 %
【中期】態度・行動	地域や事業者からの相談や通報件数の割合（/全通報件数中）〔長寿支援課統計〕	%	59.8	61.0	47.7	68.3	集計中
【長期】状況	虐待発生率〔長寿支援課統計〕	%	0.072	0.069	0.062	0.046	集計中

（※）新型コロナウイルスの影響により、開催実績なし。

【高齢者の安全対策】 4ー④【高齢者虐待防止】介護サービス提供事業所向けの虐待防止研修							
課題	客観的課題	高齢者虐待に関する相談・通報件数の約 6 割が、ケアマネジャーや介護サービス提供事業所等からのものである					
	主観的課題	虐待や認知症に対する正しい知識・意識を持っていない人もいる					
目標		介護サービス提供事業所における虐待に対する意識向上					
内容		介護サービス提供事業所向けの虐待防止研修を基本研修と事例対応研修の構成で実施。虐待防止のための意識の啓発と虐待しない職場作りを推進する。					
対象者		介護サービス提供事業所職員					
実施者		市					
対策委員会の関わり		虐待防止研修の実施					
2022 年度の実績 及び 改善した点等		・介護サービス提供事業所職員に虐待防止研修をオンラインと動画で実施し、効果的に啓発を行った。※2023.2月～3月実施 2022 年度研修申込事業所数：231 事業所（申込者数：371 人） ・「養護者による高齢者虐待防止」を研修内容に加え、介護サービス提供事業所職員が、家族等の擁護者からの高齢者虐待に早期に気づくポイントや発見時の対応などを周知した。					
2023 年度の方針 及び 課題等		<u>ウィズコロナに対応し、職位や経験年数に応じた効果的な研修の実施</u> ・ウィズコロナの中でも安心して理解を深めてもらえるようにWEB、動画を活用する ・介護サービス提供事業所職員等を対象に、職位や経験年数に応じた内容の研修を実施する					
指標	内容	単位	2018	2019	2020	2021	2022
活動指標	介護サービス提供事業者向け虐待防止研修の回数、参加者数	回	2	6	1（※）	1（※）	2（※）
		人	408	271	574	413	371
【短期】認識・知識	地域や事業者からの相談や通報件数の割合（/全通報件数中）[長寿支援課統計]	%	59.8	61.0	47.7	68.3	集計中
【中期】態度・行動	地域や事業者からの相談や通報件数の割合（/全通報件数中）[長寿支援課統計]	%	59.8	61.0	47.7	68.3	集計中
【長期】状況	虐待発生率 [長寿支援課統計]	%	0.072	0.069	0.062	0.046	集計中

（※）2020・2021年度は動画配信、2022年度はオンラインとそれを録画した動画配信での実施。

【高齢者の安全対策】4-⑤【高齢者虐待防止】地域で高齢者を見守るネットワークの構築							
課題	客観的課題	高齢者虐待に関する相談・通報件数の約 6 割が、ケアマネジャーや介護サービス提供事業所等からのものである					
	主観的課題	虐待や認知症に対する正しい知識・意識を持っていない人もいる					
目標		関係機関等の連携及び地域全体での高齢者を見守りによる、虐待の未然防止・早期発見・早期対応					
内容		高齢者が住み慣れた地域で安心して生活を継続する為に、地域の多様な社会資源を活用して、高齢者を支援する体制の整備と推進を図り、虐待の早期発見を行うとともに、早期対応に努める。					
対象者		高齢者					
実施者		地域の活動団体、医療機関、介護サービス提供事業所、久留米市社会福祉協議会、地域包括支援センター、市					
対策委員会の関わり		・虐待通報や相談への対応 ・地域ケア会議への出席 など					
2022 年度の実績及び改善した点等		・全ての虐待に関する通報件数のうち、地域や事業者・医療機関からの通報件数の割合 2021 年度 68.3%（全通報件数 60 件のうち 41 件）※通報経路に重複あり。 ※2022 年度は現在集計中 ・高齢者が抱える個別課題について、多様な専門職や地域の支援者が多様な視点から検討を行い、課題解決を支援するための地域ケア会議を実施（開催：101 回） ・地域住民や個人宅を訪問する事業者、市などの関係機関が協力して、「くるめ見守りネットワーク」に取り組み、地域全体で見守り活動を行い、日常生活における異変を早期に発見し、支援につなげた					
2023 年度の方針及び課題等		関係機関・地域と連携した虐待の早期発見・早期対応 ・虐待案件の早期発見のため、医療、介護、保健、福祉等の関係機関や団体及びまちづくり振興会や老人クラブ、校区社協（ふれあいの会）など地域住民との協力・連携に取り組む ・関係機関・地域の支援者に対し、虐待に対する正しい知識の周知・啓発に取り組む 地域で高齢者を見守る取り組みの推進 ・「くるめ見守りネットワーク」による取り組み、地域ケア会議による検討を継続して実施					
指標	内容	単位	2018	2019	2020	2021	2022
活動指標	地域や事業者からの相談や通報件数の割合（/全通報件数中）[長寿支援課統計]	%	59.8	61.0	47.7	68.3	集計中
【短期】認識・知識	地域や事業者からの相談や通報件数の割合（/全通報件数中）[長寿支援課統計]	%	59.8	61.0	47.7	68.3	集計中
【中期】態度・行動	地域や事業者からの相談や通報件数の割合（/全通報件数中）[長寿支援課統計]	%	59.8	61.0	47.7	68.3	集計中
【長期】状況	虐待発生率 [長寿支援課統計]	%	0.072	0.069	0.062	0.046	集計中

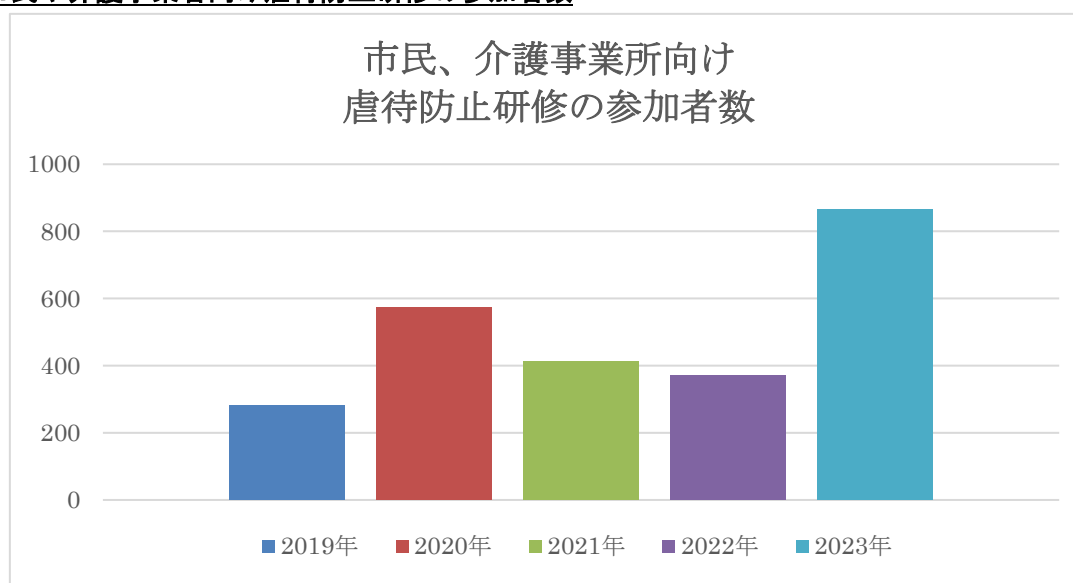
2023 年度取り組み実績

高齢者の安全対策委員会

重点取り組み項目	No	具体的施策名
転倒予防	4-①	転倒予防に関する普及・啓発
	4-②	転倒予防のための健康づくり、体力維持、介護予防
高齢者の虐待防止	4-③	虐待や認知症に関する講演会・学習会の開催
	4-④	介護サービス提供事業所向けの虐待防止研修
	4-⑤	地域で高齢者を見守るネットワークの構築

ア. 主な成果〈数値で表せるもの〉

市民や介護事業者向け虐待防止研修の参加者数



市民や介護事業者向け虐待防止研修の参加者数は、電子申請の活用等により、2023 年度は 864 名と 2019 年度の 280 名と比べ、約 3 倍になった。

介護保険住宅改修

・要支援、要介護認定の方への保険給付事業として、住宅の手すり設置や段差解消などの改修などに給付を行い、住宅環境の面から転倒予防を推進した。

件数：1,072 件 金額：約 9,659 万円



イ. 主な成果〈数値で表せないもの〉

転倒予防に関する普及・啓発

- ・高齢者等が日常生活で立ち寄る商業施設でイベントを実施し、イベント時での周知啓発を実施した

転倒予防のための健康づくり、体力維持、介護予防

- ・運動に自信のない高齢者が参加しやすいように、椅子に座って行う運動教室を新設し、フレイル境界層の方に対する転倒予防対策につないでいった。

介護者の負担軽減を図るための支援

- ・家族介護教室において介護者の意見交換の場やアンケートで在宅介護の苦労や率直な思いを聞かせていただき、支援が必要と思われる世帯の認知及び支援制度や相談先などの情報提供につながった。

ウ. 2023 年度で最もアピールできる事例

転倒予防のための健康づくり、体力維持、介護予防

- ・コロナ禍でこれまで活動が制限されていた介護予防事業や、地域で取り組まれるウォーキングやラジオ体操などの健康づくりの活動について、支援を行った。
- ・にこにこステップ運動教室の団体参加者等が、より主体的に住民主体の通いの場の運営を行えるように応援講座を実施し、支援を推進（3 回、80 人参加）
- ・ウォーキング：45 校区でウォーキング大会を実施。延 7,034 人が参加
- ・ラジオ体操：ラジオ体操講習会、市民ラジオ体操の集いを開催

エ. 2023 年度に新規・拡充・変更した内容

転倒予防に関する普及・啓発

- ・高齢者等が日常生活で立ち寄る商業施設でイベントを実施し、イベント時での周知啓発を実施した。

転倒予防のための健康づくり、体力維持、介護予防

- ・運動に自信のない高齢者が参加しやすいように、椅子に座って行う運動教室を新設し、フレイル境界層の方に対する転倒予防対策につないでいった。

虐待や認知症に関する講演会・学習会の開催

- ・家族介護教室において介護者の意見交換の場やアンケートで在宅介護の苦労や率直な思いを聞かせていただき、支援が必要と思われる世帯の認知及び支援制度や相談先などの情報提供につながった。

オ. 2023 年度に関係機関や団体、市民の主体性や協働性を推進するために実施した取組（関係機関との連携強化や市民啓発等を含む）

「くるめ見守りネットワーク」の実施

- ・地域住民や個人宅を訪問する事業者、市などの関係機関が協力して、「くるめ見守りネットワーク」に取り組み、地域全体で見守り活動を行い、日常生活における異変を早期に発見し、支援につなげた

地域ケア会議の実施

- ・高齢者虐待を含め高齢者が抱える個別課題について、多様な専門職や地域の支援者が多様な視点から検討を行い、課題解決を支援するための地域ケア会議を実施（開催：105 回）

カ. 分野横断的に行っていること

「くるめ見守りネットワーク」の実施

- ・地域住民や個人宅を訪問する事業者、市などの関係機関が協力して、「くるめ見守りネットワーク」に取り組み、地域全体で見守り活動を行い、日常生活における異変を早期に発見し、支援につなげた

地域ケア会議の実施

- ・高齢者虐待を含め高齢者が抱える個別課題について、多様な専門職や地域の支援者が多様な視点から検討を行い、課題解決を支援するための地域ケア会議を実施（開催：105回）

キ. 今後の方向性や取り組みを進める上での課題

（転倒予防、溺死・溺水予防）

更なる転倒予防実践への働きかけ

転倒予防の対策を行う高齢者は、増加しているが、更に高齢化が進むことが見込まれるため、個人の状態に合った転倒予防の取り組みが実践できるよう働きかけていくことが必要

自主的な介護予防活動の拡大

より多くの高齢者が自主的に、転倒予防を含めた介護予防に取り組める環境をつくっていくことが必要

自宅の浴槽での溺死・溺水予防に関する効果的な啓発

溺死・溺水は高齢者の死亡原因の上位となっており、今後もより効果的な啓発が必要

（高齢者の虐待防止）

虐待や認知症を正しく理解するための啓発

高齢者虐待の通報件数は横ばいの状態となっているが、更に高齢者虐待、認知症について正しく理解するための啓発が必要

家族介護の負担軽減

虐待防止のため、家族を介護されている方の負担軽減となるような支援を引き続き行っていくことが必要

2024年度取り組み方針

高齢者の安全対策委員会

具体的施策	2024 年度取り組み方針
① 転倒予防・溺死 溺水に関する普 及・啓発	<u>転倒予防・溺死溺水対策の周知啓発をさらに促進し、対策を行う高齢者を増やす</u> ・啓発用のリーフレットを見直し、より効果的な啓発物（ポスターなど）、啓発手法（SNS の活用など）を検討し、更なる普及啓発を行う。 ・これまで公的機関、民生委員・児童委員、介護サービス提供事業所等に行ってきた周知啓発に加え、溺死溺水の予防にも効果的な新たな啓発先を検討する。 ・ハード面では、介護保険の住宅のバリアフリー化等の取り組みは継続して実施する。
② 転倒予防のため の健康づくり、体 力維持、介護予 防	<u>地域における転倒予防のための取り組みの活性化</u> ・年齢と共に低下しがちな体力を維持することを目的に、介護予防に効果のある「にこにこステップ運動」などの介護予防プログラムを実践する。 ・住民主体で介護予防活動を継続できるよう、介護予防の自主活動グループづくりや、通いの場の運営を支援する講座を開催する。 ・地域で行われているラジオ体操やウォーキングなどの様々な健康増進の取り組みに対し、活動助成や周知、広報などを行い、継続的な活動につながるよう支援する。
③ 虐待や認知症に 関する講演会・ 学習会の開催	<u>虐待や認知症について正しく理解する人、事業所の増加、意識向上</u> ・虐待に関する認識や認知症に対する理解を深めるための機会を提供する（出前講座、講演会）。 ・在宅介護を行う方向けの支援と介護負担を軽減する取り組みを推進する（家族介護教室の開催）。 ・認知症の人とその家族を地域で見守り支援する仕組みづくりを継続的に実施する（認知症サポーター養成）。 ・認知症サポーター養成講座を受講した企業や団体等にオレンジ協力隊として活動してもらうことで、市全体で認知症の方を支える雰囲気づくりを行う（オレンジ協力隊養成講座）。 ・介護サービス提供事業所向けに、虐待防止研修を継続的に実施する。 <u>関係機関等及び地域全体で連携して高齢者を見守り、虐待の未然防止・早期発見・早期対応を行う</u> ・地域ケア会議や見守りネットワークを活用し、地域の多様な社会資源を活用した支援体制を構築し、高齢者虐待の早期発見・対応に努める